

問題

リンドブロムのインクリメンタリズムについて、合理的意思決定に対する批判に言及して、説明せよ。

解答のポイント

① インクリメンタリズムの特徴

特徴は様々なものがあり、すべてを挙げることは難しいが、少なくとも以下の 2 点は書いておきたい。

- a) 実現可能な 2～3 の選択肢から最善策を選ぶ。
- b) 問題の完全解決ではなく、修正・変更を続けて漸進的な解決を目指す。

② 政策形成過程に関する他の研究との対比

合理的意思決定モデル（合理的選択モデル、総覧的決定モデル）との違いを示す必要がある。

③ 多元的相互調節理論

インクリメンタリズムは、実際の行動様式の記述モデルのみならず、「多元的相互調節理論」という形で、模範的な行動様式として推奨されるべき規範モデルとして提示されている点も触れておきたい。

解答例

1950 年代末、政治経済学者 C. リンドブロムは、政策立案における一般的な行動様式を「インクリメンタリズム」（漸増主義，漸変主義）という言葉で説明した。これは予算の編成過程において、前年度予算をベースにして新規の増分についてのみ厳しい査定が行われているという観察結果に基づき提示された政策形成過程の一般的記述モデルである。

従来は、政策形成過程について、一元的な価値や目的の下で可能な限りの選択肢を提示・検討して政策を一挙に決定していると捉える「合理的意思決定モデル」が主流だった。それに対してリンドブロムの観察によれば、政策立案者の行動様式は次のようなものとなる。第一に、政策立案は、理想の目標に近づくためではなく現実の差し迫った弊害を除去するために開始される。第二に、選択肢の検討は少数のなじみのあるものに限定され、現状からわずかな変化を生むようなもののみが対象となる。第三に、ゆえに何か合理的な目的や価値を明示してからそれを実現するための手段を探すというよりも、むしろ政策の修正や変更を繰り返しながら漸進的に解決をしようとするものになっている。第四に、政策の検討作業や評価は政策形成に関わる多くの参加者によって多元的に行われている。

以上の見解は、現実の意思決定過程は「合理的意思決定モデル」のようにはなっていないことを示している。しかしリンドブロムは、この多元的かつ漸進的に行われる政策形成の方がかえって確実に合理性を確保するのであり、行動様式の指針を示す規範モデルでもありと主張している。これはちょうど市場の自動調整作用の予定調和に似て、多元的な集団利益代表者たちの利己主義的な行動が、結果的には相互に調整されて公共の利益に合致した合理的なものになるというものであり、「多元的相互調節理論」と呼ばれている。

インクリメンタリズムについて、規範モデルとしての側面には批判が多いものの、記述モデルとしては現状の政策過程をより多く説明できる有力モデルと評価されている。

以上

TAC 生はココで解けた！

東京都 I 類 B 対策セミナーの予想問題①とほぼ同一の問題なので、復習していれば解けたはずである。また、専門記述対策（政治系）テキストレジュメ P. 222 に掲載している特別区 I 類の過去問ともほぼ同一の問題であるため、こちらをしっかりと学習していれば解けたはずである。